422
講談社現代新書

日本の恋の歌

恋愛は、人間にとって、生と死と並ぶ大きなテーマであり、古来、「恋の歌」は詩歌の中心であった。人は愛し、人は死んでいく。時代が変わろうとも、社会が変わろうとも、喜びや悲しみの心は変わることなく、永遠にうたいつがれていく。本書は、記紀、万葉、古今から、与謝野晶子、北原白秋、萩原朔太郎にいたる恋愛詩の歴史と、つややかに流れる男女の情を、高らかにうたいあげ、日本人の心の故郷を発見する。

山本健吉

日本の恋の歌
昭和五〇年十二月二〇日第一刷発行
著者——山本健吉
©Kenkichi Yamamoto 1975 Printed in Japan
発行者——野間省一　発行所——株式会社講談社
東京都文京区音羽二—一二—二一　郵便番号一二二　電話〇三—九四五—一二一　振替東京三九三〇
装幀者——杉浦康平＋鈴木一誌
印刷所——凸版印刷株式会社　製本所——株式会社大進堂
●—定価はカバーに表示してあります
落丁本・乱丁本はおとりかえします（学1）

恋の歌

山本健吉

講談社現代新書

まえがき

恋の心を詩に歌い、文学に作ることは、いつの日とも知れない大昔に始まって、いまなお続いている人間世界の事実です。世の中がいかに変わり、人間がいかに進歩しても、愛と死という二つのテーマは、いつまでも深い関心事であり続けるでしょう。

それは決して複雑なテーマなのではありません。人は恋し、人は死ぬという、だれも疑いようのない単純明快な事実なのです。けれども、この単純な主題が、人により、時代により、地方によって、いかに無限の変貌を示してきたことでしょう。

千数百年も前に、日本に叙情詩がおこった初めから、恋愛詩は作られてきました。人々は異性への思慕を、長い歳月にわたってことばに表現してきましたし、そこにはかれらのさまざまな心の振幅がかなで出されています。

それはあるときは、単純率直な喜びの歌であり、異性を求める激しい心の訴えの歌であり、触れ合うものへの親しみの歌であります。あるいはまた、別離にともなう悲しみの歌であり、

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

裏切られた者への怒りの歌であり、相手のつれなさへの恨みの歌であり、もはや返らぬ昔をしのぶあきらめの歌であります。

そしてその声の響きが、時代時代によって、微妙に変化してきているあとも、たどることができます。古くは、それは男と女とが一対一で向かい合った場合の、なんの飾りも必要としない、それこそもっとも自然な欲求の素朴な表現だったでしょう。文化が成熟してくると、そこに複雑な心理的ニュアンスが付着してきて、恋の歌を贈答することは日常のエチケットとなりそれだけ恋愛に遊戯的な要素も加わってくるでしょう。さらに近代になりますと、恋を神聖なもの、至上なものとするヨーロッパふうの考えもはいってきて、恋愛詩に、それまでになかった精神的なものも加わってきました。

恋の歌は、世界のどの国においても、叙情詩のもっとも中心的な部分を占めています。それは文学作品であるとともに、実用的な意味ももっていました。つまり相手の異性へ恋歌を贈って、その心を自分のほうへなびかせようとします。ですから、恋歌の目標は、だれか特定のひとりであり、多数の者が読むことを、もともと目標にしていません。けれども、作者が文学意識をもつようになると、それは実用性が希薄になって、万人の愛誦に堪える詩歌となります。

古い『万葉集』の恋歌と、「秋刀魚の歌」や「レモン哀歌」のような近代の恋愛詩と、その現われはずいぶん違います。その千数百年にわたる日本の恋の歌の種々相を、日本人の心の動きの種々相として、あなたといっしょにたどってみたいと願って、この本を書きました。こうして、『万葉集』の数々のすぐれた歌の基盤となった、日本最古の記紀の歌から近代詩まではるばるたどってみると、わたくしたちはそこに、一本の縦糸として、変わらずに続いてきているものを見いだします。それは、もっとも直接的な形で、日本人の喜びや悲しみの心の色を映し出していることでした。ここに選んだ恋の歌を通して、あなたは、日本人の内面の情熱と憧憬との歴史を知ることができるでしょう。それはまた、あなたにとって、なつかしい心の故郷をたずねることでもあるはずです。

一九六四年初秋

山本健吉

目次

まえがき……3

1——物語の中の恋人たち……13

1—恋愛詩のあけぼの　14

2—祝婚歌と挽歌　16

3—自然の点景　21

4—女心・男心　26

2——『万葉』の恋人たち（上）……35
1—相聞と挽歌　36
2—恋歌の先ぶれ　39
3—対照的な二つの唱和　43
4—歌われる処女、歌う女　48
5—柿本人麻呂の叙情　53
3——『万葉』の恋人たち（下）……61
1—民話調から創作歌へ　62
2—素朴な牧歌的叙情　65
3—明快なセックスの喜び——東歌　72

4—享楽・退廃へのきざし 79
5—女心の恨み・つらみ 84
6—激しさと技巧と 90

4——優雅な恋人たち（上）……97

1—『万葉』から『古今』への道 98
2—恋に生きた美男の歌 100
3—『万葉』の率直に『平安』の優美 106

5——優雅な恋人たち（下）……113

1—女流文学の時代 114
2—和泉式部の恋絵巻 117

3—忍ぶ恋の式子内親王 125
4—王朝短歌のきわみ 130

6——平安・室町の歌謡の恋……137

1—短歌に並行した歌謡の系列 138
2—まったく別世界を展開 141
3—しみわたる女の悔恨 146
4—小歌に寄せる庶民の哀歓 150

7——近代短歌の恋人たち……157

1—与謝野晶子の『みだれ髪』 158
2—その恋は光と憂いに満ちて 163

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

3—啄木の永遠の女性 171
4—斎藤茂吉と永井ふさ子 177
5—えりを正す愛の荘厳 189

8——恋に恋うる詩人たち……197
1—新しい皮袋をつくる 198
2—いちばん愛誦された詩二つ 201
3—初恋と片恋 209

9——現実を越える愛の世界……215
1—近代の叙情と心象風景 216
2—近代恋愛詩の圧巻 224

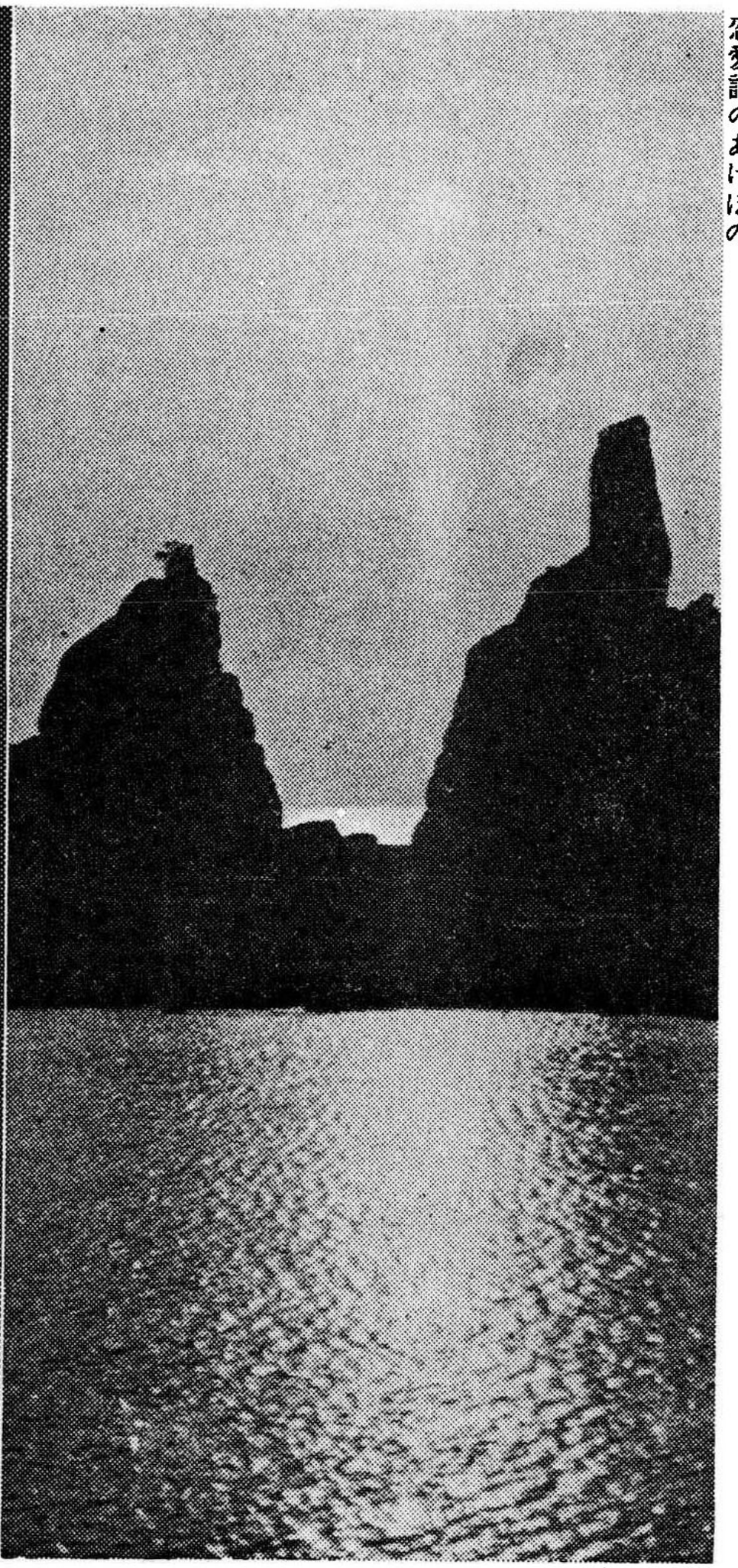
3—永遠の生命の輝き　232

索引

なお、本書は現代新書21
『日本の恋の歌』の新装版です。

恋愛詩のあけぼの

1 物語の中の恋人たち



〈1〉 恋愛詩のあけぼの

わたくしたちの遠い祖先の心

『古事記』と『日本書紀』とは、日本のいちばん古い歴史の書物で、同時に神話と伝説と物語との書物であり、またその中にちりばめられた歌謡によって、もっとも古い詩歌の本でもあります。それは万葉以前の日本の歌の姿を見せているので、それだけを抜き出して、記紀歌謡といって愛好されています。

そこには神々の歌があり、天皇・皇后・皇子たちの歌があり、また、童謡（わざうた）という無名子の歌謡もあります。けれどもその多くは、だれか特定の個人の作品とすることはできません。たとえば、須佐男命（すさのをのみこと）や倭健命（やまとたけるのみこと）の歌だと伝えられていても、そう信じるわけにはゆきません。

それらの人たちの事跡を述べた叙事詩が語り伝えられて、その中のもっとも叙情的なさわりの部分に、歌がはめこまれているのです。ですからその歌は、なにか他の目的のために作られた歌だったかもしれないのです。

けれども、作者はわからなくても、そこに伝えられた恋愛歌は、古代の日本人の恋愛感情を、生き生きと伝えてくれます。

特定の人の作品ではありませんから、特定の人の恋愛感情をそのまま伝えているというわけにはゆきません。そのような個性的な歌は、ここにはほとんどありません。むしろ古代人の一般的な生活感情を現わしているといえましょう。

今も変わらぬその喜びと悲しみ

それに、その多くは、なにかの儀式や祭りのとき歌われたものなのです。新婚者の新築祝いのとき歌う歌が「八雲顕つ」の歌だったり、新婚の宴席で発する歓喜の雄たけびの歌が「道の後」の歌だったり。そういうふうに、歌われる場の理解が、必要になってきます。

けれども、ともかくそれらの歌は、じつに天真爛漫な、素朴な内容と調べとを持っていて、今でもわたくしたちを感動させます。

こういう歌は、いつの時代になっても、人の郷愁をそそるような要素を持っているのではないでしょうか。そういう境地になれといっても、今のわたくしたちは、なれるものではありません。そして、なれないからこそ、それはいっそうあこがれの対象として、いつまでも生きて

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com